

つい先日飯館村の通称「どぶちえ」→一本名佐々木千栄子さんが造った「どぶろく白狼」が届きました。この飯館村は東北大震災の福島第一原発の事故によって計画的避難地区に指定されて一カ月以内に避難が要請されている地域であります。この飯館村も7~8年前合併問題が持ち上がったが合併せず、独自路線を進む事を選びました。それ以来、村は独自で生きていくため自立へ村おこしの模索が続いて居ります。

ちえさんは古い合掌造りの葉タバコの乾燥倉を改造して「気まぐれ茶屋ちえ」と名付けた農家レストランを村おこしの一役となればと開店し、得意とする飯館産の餅米をふんだんに使った「ちぢみ餅、舞茸おこわ、味噌漬け」から「気まぐれ膳」を提供して数年たった時、岩手のどぶろく特区を知り、飯館村特区を申請しました。

悪戦苦闘しながら2005年特区が認められ、最初は「どぶろくの千栄」をもじって「どぶちえ」と名づけたが偶然にも「ロシア語のドブチエ」では「皆で楽しい酒を飲めば村は盛り上がる」と好評を呼んで年間500本も売れるようになった時、不運にも東北大震災、原発事故と遭遇してしまっただけであります。

悪い時は重なりチエさんは乳ガンになり、夫の勝男さんも昨年肺がんと診断されて気丈なチエさんも「今までは今日がどんなに辛くても明日、明日がダメなら明後日には明るい未来があるからと頑張ってきたが・・・放射能だけは参った、参った、本当に参った!!」と無理に笑おうとしたが顔がゆがんで涙をこぼしたと言う。私が息子さんに「千葉の君津は豊かで景色はよいし、原発も火山もないし、台風も洪水も来ない、冬は暖かく雪も降らない、食べ物もおいしい所だからご両親を連れて私の家へ当分療養に来なさいよ」と勧めましたが「いくら村が悪くても体が悪くても、家の親父とおふくろもこの村を捨てて行く様なことは絶対出来ない人ですよ・・・」と言われました。

チエさんは新しいドブロクに「白狼」と名前を付けた。飯館村の伝統に、昔から村に難儀が降りかかる時、いつも白い狼が村に現れて救ってくれると言い伝えがあるからと願いを込めたと思われます。

「君津は親近感があり、家の近所から新日鐵へ入り君津で活躍しているKさんがいる。村自慢の出世頭だ！探してよろしく伝えてくれ」と言われ、そのKさんは探したら新日鐵の村重さんの友人でありました。

原発処理はいつになったら終わるであろうか避難が仮にこの後数ヵ月で終わって、村へ帰っていいと言われても帰ってからどうすればいいのだろう。幸い日本は島国で単一民族ですからいざとなれば助け合って生きて行く、同族親戚意識の絆が太くなります。その温かい情愛に助けられて明日、明後日以後の未来、明るい夢を画いているけれど、いつも心の底と背中に重たい石の様な物をずっしりと感じて居りますと言われます。

私達は村人が待っている白い狼の役目を果たして行かなければならない。

本年は、君津市文化のまちづくり市税1%支援事業の第3次募集が決定し、近々ご案内がなされる様です。是非これ等を活用し街づくり、地域おこしに活用して下さい。

